

## 地元イベントに広報ブースを出展 南極の氷だよ？冷たいから嫌～！

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 縣一陸尉）は、11月16日（日）、サンテラス日吉（横浜市港北区箕輪町）で行われた箕輪町商工会議所主催の「港北区箕輪町商工会議所祭り」に、自衛官募集相談員の協力を得て広報ブースを出展し、PRを行った。

広報ブースには、2月の大雪被害をはじめ、広島県の土砂災害や御嶽山の噴火に伴う災害派遣活動の写真パネルと南極の氷を展示した。見学者の中には「今年は災害の多い年だったね」と、しみじみと語りかける方や、南極の氷を触らせようとする母親と、冷たくて嫌がる子供の姿なども見られた。

横浜出張所は、「今後も、地域のイベントに積極的に参加し、自衛隊の活動をPRしていく」としている。



南極の氷に触れるのを嫌がる子供

## 平成26年度神奈川県国民保護図上検討会を研修

神奈川地方協力本部（本部長 高田充一海佐）は、11月19日（水）、平塚市教育会館で実施された「平成26年度神奈川県国民保護図上検討会」（神奈川県主催）を研修した。

図上検討会では、「1200 湘南ひらつか七夕まつりが行われているJR平塚駅北側の紅谷町まちかど広場で爆発があり、見物客等約50名が重軽傷を負っているものと見られる」また、「1450 国際テロ組織がJR平塚駅爆破を予告している」という2つの状況が付与され、各機関が国民保護措置等の事態対応を調整していた。状況は事前に知らされておらず、各機関とも戸惑いながらも真剣に取り組み、短時間で具体案をまとめた。参加者から、「被災者で外国人がいた場合、どのように対処したらいいのか」などの質問が投げかけられていた。

神奈川地方協力本部は、「今後も、各地方自治体が計画する各種訓練に積極的に参加し、国民保護に関する即応性の向上を図っていく」としている。



対処案を発表する第31普通科連隊